



ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当 上越市 総合政策部 総合政策課 ふるさと応援室
〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3 TEL.025-520-5625

◆ 平和の祭典「ミラノ・コルティナ2026五輪大会」に思いを馳せて

瀧澤康二(元日本体育大学副学長)

はじめに

時差ボケ承知で五輪大会の実況をTV観戦していたのは私だけではないでしょう。白銀と氷上で繰り広げられたドラマチックな事象は私たちを夢中にしてくれました。

まずは連日、感動と勇気を与えてくれた選手の皆さん、大会運営に携わったすべての関係者、更にスポーツ文化の普及・発展にご協力頂いているメディアの力に深く敬意と感謝の意を表します。そして、本誌に特別スペースを与えてくださった小坂会長はじめ、編集関係の皆さんにも深く感謝申し上げます。

演技要素の高難度志向は体操競技の影響か？

冬季五輪大会のプログラムにスノーボードが加わったのは今から30年近く前の長野大会(1998)からです。爾来、大会プログラムの多様化が進みました。圧巻は、アクロバット演技要素の高難度化です。このトレンドには私も体操関係者の一人として驚きを禁じ得ません。

体操競技特性の一つに「難易性と驚異性を競い合う」という点が挙げられます。この競技性がそのまま冬季五輪大会の各種プログラムで見受けられました。同じような競技種目に、トランポリンやパルクール、ブレイキン、アーティスティックスイミング等があります。

これらは採点競技で演技要素の高難度化はごく自然なことです。その原点はあそびにあります。競争はあそびを、より面白くしてくれます。闘争心は人間の本能で、子供のあそびでよく見られます。心配は、事故です。事故防止のためのルールが気になるところです。

あそび心がスポーツ文化を刺激！？

「文化はあそびから生まれる」と、主張したのはオランダの社会学者、ホイジンガです。私は、スポーツ概念の内包は「遊戯性」と「競争性」であると考えています。それは、この両者が同時に備わっていれば、その活動をスポーツと呼べるということです。

ボードあそびは雪がなくてもできます。実際、夏の大会でも人気上々です。しかし、ボード関係者は未だ発展途上と思っておられるのでしょうか？本大会メダリストのインタビューを聴いていますと、感謝のことばの他、「このメダルが普及に繋がれば幸いです」、という類の話が多くありました。私にとっては実に印象深く、それらのことばに殊更感動しました。

メダル獲得の意味について

メダルは、苦勞に苦勞を重ねた人への勲章ですが、それはあくまでも幸せな人生を送るための手段で目先の目標です。目的(end)ではありません。それ故にアスリートたちが私たちに勇気と感動を与えてくれるのではないのでしょうか。フィギュアスケート・ペア「りくりゅう(三浦璃来と木原龍一ペアの愛称)の大逆転」は、日本中に涙の感動を与えてくれました。

ちなみに、近代五輪大会の父、クーベルタンは、「選手がお互いに勝利を目指して汗水し、切磋琢磨努力することは、人間として極めて貴いことだ」ということばを遺しています。

私は「スポーツにおける競争は、本能である弱肉強食的闘争(本能的暴力)から理性に基づく競争(理性的暴力)への変換である」と、捉えています。それ故、本能を喪失しつつある現代人にとって、スポーツ活動は極めて重要な文化であると認識しています。



◆ 渇水下でのお米作り

妙高市西条農園 池田肝太

昔から、越後の米作り百姓の間では「お日様の力が7～8割、人様の力は3～2割」と言われています。すなわち「稲作りには人がどんなに手入れや技術で努力しても、自然の影響が7～8割と大きく、人がどんなに努力しても自然の力にはどうにもならない」ということですが、今年ほど、自然の力の大きさを痛感した年はありませんでした。

一方Jネット会員の方はご存知と思いますが、新潟県の大きさ（長さ）です。富山県境から山形県境まで約300 kmあり、地域としても上、中、下越、それに佐渡の4地域に分かれてよばれています。

今年の春から夏にかけての天候はこの4地域とも、高温の暑い日がつづきましたが、違ったのは降水量で、能登半島～佐渡～下越地域に渡るラインに沿って大雨線状降水帯が度々発生し、何度も災害が発生するほどでした。時々降る雨もせいぜい長岡市、柏崎市までで、米山から西側の上越地域では8月末までまったく雨の降らない異常な日がつづきました。上越市では、水道水の制限も出された程の水不足となりました。

稲作りの水との関わりは、5月始めに耕耘済みの圃場に、用水から水を引き込み代掻きを行い、5月中旬までに田植えを行います。田植え後約1ヶ月間は圃場に水を入れ出し管理し、6月中旬から圃場の水を抜き2～3週間中干しを行い、その後用水から再び水を入れ、出穂の9月上旬まで水管理を行うことで、美味しいコシヒカリの収穫を迎えられます。

ところが今年の上越地域では6月～8月にかけて稲が水がほしい時期に殆ど雨が降らなかったことから、雪解け水とその後の降水にたよる、山間部の棚田では、雨水が涸れてしまい、多くの棚田で水がなくなってしまい、圃場面でひび割れや稲その物が枯れてしまうような、被害が多くでてしまいました。

用水路の整備された、頸城平野の下流部でも、雨不足から用水そのものの水量が減ったことから上流部での取水で用水の水量が減少し、圃場のひび割れや立ち枯れ被害が発生した箇所も出てしまいました。

このような厳しい水状況でしたが、お陰様で私の圃場では、水利の状況がよいことから、水不足の心配は無かったので助かりました。

